

## 目次

●「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) .....	1
●広島市議会「女性議員との懇談会」(報告) .....	2
●「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告) .....	3
●広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ .....	4



被爆から74年目を迎えようとしていた  
2019年7月31日、第21回「ヒロシマ平和  
の灯のつどい」を開催しました。

このつどいは、国内外の観光客や市民  
とともに原爆犠牲者の冥福を祈り、核廃  
絶と恒久平和を願い広島から世界にア  
ピールするもので、今年は大人から子ど  
もまで約100人の参加がありました。

第22代高校生平和大使の協力により  
核兵器が地球上から姿を消すその日まで  
燃やし続ける「平和の灯」から採火。それ  
を見守る人々の中には、元カザフスタン  
からの留学生と高校生平和ゼミナーの  
メンバーの姿もありました。その後、参  
加者全員が持つ蠟燭に分火し、原爆死没  
者慰靈碑の前で黙とうを捧げ、「原爆を許すまじ」を合唱しました。

夕暮れに差し掛かった頃、カザフスタン被曝者への鎮魂歌「ザマナイ」を流しながら、原爆死没者慰靈碑を中心に平和記念公園内を静かに行進しました。

時折、強く吹く風に蠟燭の炎が消えるというアクシデントもありましたが、参加者は手を添え合い、炎を分け合  
い、互いを思いやりながら歩くその姿に平和の原点を見たような気がしました。

このつどいでは、「被爆者の証言を聞く会」も併せて開催しました。広島平和記念資料館地下会議室にて約1時間、15歳の時に被爆した切明千枝子さんの体験を聞きました。切明さんは「体験をしていないものには分らない」というが、言わないともっと分からぬ」という思いからやっと話す気持ちになったそうです。思い出すのも辛い被爆時の惨状を赤裸々に語り、命の重み、平和の大切さ、尊さを説く切明さんの話に、参加者はじっと耳を傾けていました。

## 切明千枝子さんの証言

「広島県立第二高等女学校4年生だった15歳の時、爆心地から南東およそ2キロの場所で被爆。偶然にも建物の影にいたため、やけどや大きな怪我は免れた。その後、学校に戻ったが、そこにやつとの思いでたどり着いてきた下級生たちの救護にあたった時のことは今でも忘れられない。その下級生たちの様子はと言えば、誰が誰だかわからないくらいの顔が腫れあがり、髪の毛は逆立ち、指先からは真っ黒いわかめか昆布のように見える皮膚が垂れ下がり、足首から伸びる黒い皮膚を引きずって歩き、裸同然の姿だった。先生は、皆をいたわりながら、『皮膚だけ切るしかないね。』と鋏を持った。生徒は小さく消え入るような声で『先生ありがとうございます。これでちゃんと歩けるよ。』とお礼を言っていた光景をよく覚えている。自分も下級生を介抱しようとしたものの、重傷者にうっかり触れると皮膚と一緒に肉も取れてしまうので、ただ声をかけて励ますことしかできなかった。軽度の火傷であれば、家庭科室にあつた菜種油を体に塗ってあげることもしたが、下級生たちは苦しみながら、次々と亡くなっていた。土を掘り、壊れた校舎の材木を置いて校庭の隅で泣きながら荼毘に付した。遺骨は、家族のために学校内に安置したが、誰にも引き渡すことができない遺骨もたくさんあった。

原爆による火災が収まった後、市内の川は死体で埋め尽くされ、道を歩くのも死体をまたがなければ先に進めなかつた。誰にも弔われることなく、そのまま土に還つていった人がどれだけおられたことかと思うとやりきれない。

平和で天寿を全うできる世の中にしてほしいと思う。うっかりしていたら戦争がいつの間にか忍び込んでくるように思う。私たちは目を光らせ命がけで平和を守り抜かねばならない。子どもや孫を戦地にやりたくはないから。どうか、今日の話を、戦争を知らない若い人たちに伝えてほしい。」(要約)

切明さんは、戦前の様子も語って下さった。「女学校に通っていても勉強をするのでなく、中国に行く兵隊さんたちを見送る日々だった。ある日は、体育の授業としながらも手りゅう弾を投げることや手旗信号を教えられた」と聞いて驚いた。戦前のこと、もっとしっかり伺いたいと思っているうちに時間は過ぎた。

別れ際に「あなた方に平和のバトンを渡しました。しっかり頼みますよ!!」と皆とハイタッチをして会場を後にされた。その後ろ姿を見送りながら「私たちはどう応えるのか。」と、自問した。

(学習部会 西村宏子)



報告

## 広島市議会「女性議員との懇談会」

今年も広島市議会の女性議員のみなさんとの懇談会を10月21日に開催しました。(会員参加者: 11人)

今回のテーマは、「児童虐待と子どもの権利」です。

はじめに、女性議員のみなさんとともに、広島市児童相談所の紺田所長から簡単なレクチャーを受けました。

児童虐待の現状は、昨年相談・通告件数が過去最多、5年前より倍増となり、警察のDV事案からの通告が一番多くなっています。また、法改正により、親権者による児童のしつけのための体罰が禁止になったことや支援の状況についてお話を伺いました。

今年は、女性議員6人全員参加で、それぞれの活動や問題意識について伺いました。以下は、その骨子です。





- 中原議員（共産党）：社会で子育てをすべきで、過去、子どもの権利条約を受け条例策定に向けて頑張っていた。学校給食を自校給食にすることや放課後児童クラブの充実について頑張っている。
- 藤井議員（共産党）：フィンランドやスウェーデンは「ネウボラ」の取り組みによって、児童虐待のない国になっている。社会で育てることが大切。朝鮮学園の高校授業料、幼児教育も無償化から対象外とされ、広島市がこれまで出していた朝鮮学園の補助金もカットしているため、その問題に取り組んでいる。
- 近松議員（共産党）：児童福祉法の体罰禁止とともに妊娠期からの絶え間ない支援が必要。
- 石田議員（公明党）：当選したばかりで現在は勉強中の身であり、先日もCAPの勉強会に参加してきた。文教委員として発達障害やインクルーシブ教育に取り組んでいる。
- 桑田議員（市政改革ネットワーク）：公立高校ではアルバイトを禁止しているが、シングルの親の子など経済的に苦しい子どもは許可をもらって働いている。働きながら大学へ行くことをめざす養護施設にいる子どももいる。親は変わらない。子ども自らが生きていく力につけることが重要。教育の充実のため学校の適正配置について取り組んでいる。
- 馬庭議員（市政改革ネットワーク）：女性議員が半分いたら子どもの権利条例制定も実現しているが、子ども施策が低下している。男女共同参画関係予算も増えていない。その一方で市民活動（CAP、子どもシェルター、チャイルドライン、ワンストップセンター）が活発で、ここに支援を集中したい。



続いて、WENETの会員と意見交換を行いました。

子どもの体罰は禁止になったが罰則がないことが問題であることや女性議員を増やすための取り組みについて、連続した講座を開催していくことが説明されました。

また、会員から、障害児デイサービスについて、事業所は補助金が下げられたために経営が圧迫され、保護者は利用日数が制限され困っている状況を伝えると、広島市は国の施策以上のことを行ってきたが、今になって国に合わせ、広島市独自にするつもりはないと説明がありました。

この4月の選挙で女性議員が2人減り、広島市の子ども施策の後退の現状からも女性議員を増やすことが喫緊の課題であることを認識した懇談会になりました。

（啓発部会 中嶋典子）

## 報告 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン

国は、女性に対する暴力撤廃国際デー（11月25日）にあわせ、毎年11月12日～25日を「女性に対する暴力をなくす運動」期間と定め、意識啓発を図っています。

広島市においてもこの運動の一環として、広島市と国際ソロプチミスト広島一中央の主催で市民への街頭キャンペーンを実施しています。



ひろしまWENETも2015年からこの活動に参加しており、今年も11月12日広島駅南口付近、11月25日八丁堀交差点付近の2か所でDV防止のチラシ等を配布する街頭啓発活動を行いました。



主催団体の国際ソロプチミスト広島一中央から、この活動にかかわった経緯などについて寄稿していただきました。

（啓発部会 貴田月美）

国際ソロプチミストは、1921年アメリカ合衆国オークランドで女性の力によって結成されました。現在全世界に5連盟あり、女性を中心とした国際的な奉仕団体です。日本はアメリカ連盟の一員で、私ども国際ソロプチミスト広島一中央は1997年に日本西リジョンの一員として親クラブの下、認証されました。

「国際社会における女性と女児の生活向上」というソロプチミストの基本理念に沿った奉仕活動の一環として、暴力被害者の相談窓口を記載したカード配布は、発足以来続けてきました。毎年11月25日の「女性に対する暴力撤廃国際デー」に、最初はそごうの前、そして八丁堀天満屋の前で配っておりました。

小さな活動ですが、継続してきたことで、最近5年間は広島市男女共同参画課のご協力を得て、広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)の方々も一緒に広島駅南口でも配布させてもらえるようになりました。人数も増えて心強く思っています。最近は道行く方たちもDV問題に対する関心が増えてきているのか、快く受け取ってくださる人が増えたように感じています。

今の世界情勢は色々な問題が一挙に浮かび上がってたいへんな問題をさまざま抱えております。関心を持ち続けること、活動を続けることで、ささやかな歩みですが、すこしでも平和で暮らしやすい世の中になってほしいものです。力を合わせ、希望を抱き続けてこれからもDV防止カード配布をはじめとする、さまざまな奉仕活動に取り組んでいきたいと考えております。最後になりましたが、広島市男女共同参画課、ひろしまWENETのみなさまにはご協力いただき心よりお礼申し上げます。

(寄稿：国際ソロプチミスト広島一中央)

## 広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ

### 2019年度広島市女性団体連絡会議役員紹介

役職名	名前	団体名
会長	山本 紀子	水曜茶論
副会長	中嶋 典子	Human&Network宙
副会長	西村 宏子	2000+17・平和
書記	山根 ミサ子	一般財団法人 広島市母子寡婦福祉連合会
書記	藤永 雅子	広島市未来を考える女性の会
会計	横光 美里	2000+17・平和
会計	宮田 保江	安芸コスモスゾンタクラブ
学習部会長	平木 久恵	2000+17・平和
啓発部会長	貴田 月美	女性会議広島支部
広報部会長	澤野 道子	安芸コスモスゾンタクラブ
監事	佐藤 奈保子	女性会議広島支部
監事	森戸 美佐子	国際ソロプチミスト広島

#### 男女共同参画セミナー

テーマ：子どもたちに伝えたい性の話 &「性被害ワンストップセンター」の役割

講師：河野 美代子さん(産婦人科医)

日時：2020年2月9日(日)13時30分～16時

場所：合人社ウェンディひと・まちプラザ(広島市まちづくり市民交流プラザ)北棟6階「マルチメディアスタジオ」

#### 2020年国際女性デーひろしま

テーマ：「被爆75年 核のない世界をめざして」

講師：宮崎 園子さん(朝日新聞記者) 矢野 美弥古さん(被爆証言者)

日時：2020年3月8日(日)13時30分～15時(予定)

場所：ゆいぽーと(予定)